

経営比較分析表（令和6年度決算）

群馬県多野藤岡医療事務市町村組合 公立藤岡総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	300床以上~400床未満	非設置
経営形態	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2	
直営	27	対象	ド透未訓方	救急が感災地輪
人口(人)	建物面積(m²)	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	34,429	非該当	非該当	7 : 1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 宮…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線) 診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…べき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
395	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	4	399
最大使用病床(一般)	最大使用病床(療養)	最大使用病床(一般+療養)
350	-	350

グラフ凡例
■ 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
【】令和6年度全国平均

経営強化に係る主な取組(直近の実施時期)

組織分化・連携強化 (従来の両組・ネットワークを含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I. 地域において担っている役割

藤岡医療圏のみでなく、埼玉県北部医療圏からの医療需要にも対応する役割を担っており、地域中核病院として質の高い効率的な医療提供を行っている。②地域の救急・小兒・周産期医療を担い、地域完結型の医療を提供するため、地域医療機関と連携強化を図っている。災害・感染症対策の基幹病院として地域医療を確保するとともに、手術や救急医療等の急性期病院としての役割を果たしている。

II. 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

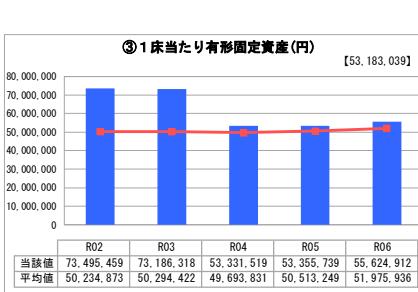
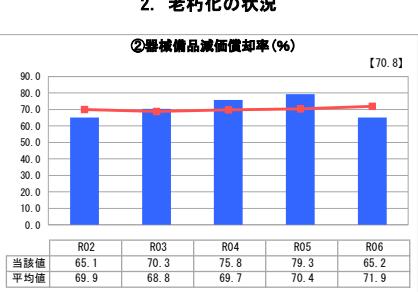
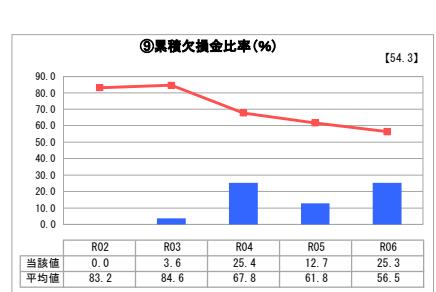
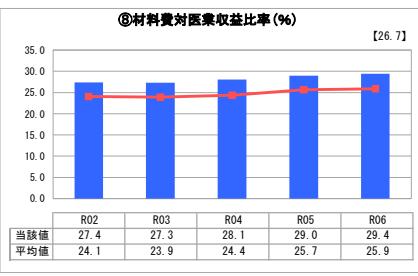
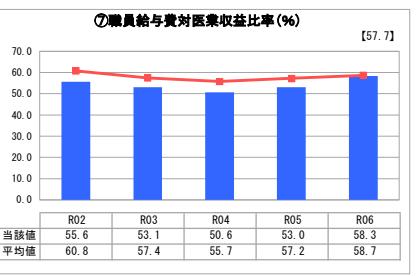
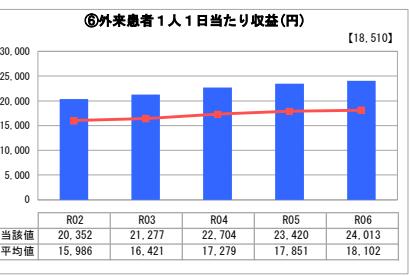
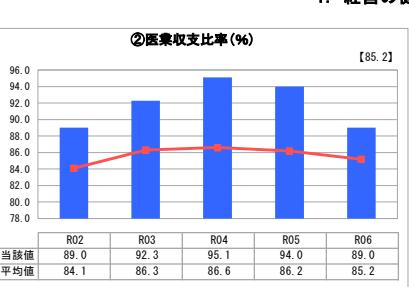
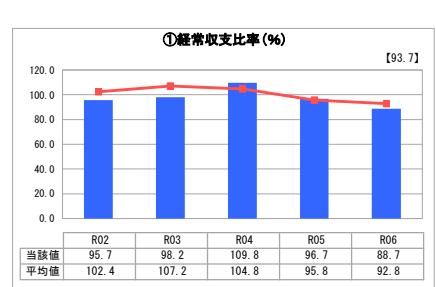
①経常収支比率は、給与費・材料費が増加していることや、各補助金の減少により、前年値を下回っている。②医業収支比率、③修正医業収支比率は、平均値を上回っているが、電子カルテ更新により、料金制限をしたことによる。前年と比較すると入院・外来の収益が減少したため、比率が下がっていたが、徐々にコロナ前に戻ってきてている。⑤入院患者1人1日当たり収益は、高額薬剤の使用(抗がん剤等)による。⑥外来患者1人1日当たり収益は、入院患者との診療体制等に大きな変化ではなく、横ばいで推移している。⑦職員給与費対医業収益比率は、職員数が増えたことが影響し、増加している。⑧材料費医業収益比率は、高額薬剤の使用により診療単価・材料費とともに伸びている。⑨累積欠損金比率は、コロナの補助金がなくなったとともに、給与費・材料費が増加したことにより、赤字幅が増加した。

2. 老朽化的状況について

新入院棟建設(平成29年11月開院)を行っているため、老朽化は解消されており、①有形固定資産減価償却率は、平均に比べ低い値となっている。②器械備品減価償却率は、器械備品の老朽化が進んでいたが、電子カルテを更新し、デジタル化でのセキュリティ強化を図ったため、平均値を下回った。③1床当たりの有形固定資産については、昨年と同様に平均値並みを維持している。

全体総括

入院部門では急性期の医療体制を確保しつつ、回復期リハビリテーション病棟の効率的な稼働を図り、クリニカルパスの導入やDPCの適正化により、平均在院日数の短縮、病床利用率の向上に取り組み、機能評価係数を上げることを目標に、収益確保に努める。外来部門では専門的検査や治療に重点をおいた紹介型外来の充実と救急医療体制の強化に努めている。また、在宅復帰に向けた診療体制の強化を図り、病院経営の健全化を推進していく。さらに、地域医療の充実を図るために、常勤医のいない診療科の医師の確保に努め、地域医療構想を踏まえた役割の明確化を行い、行政機関や地域の医療・介護・保険医療機関との連携を強化することで、地域包括ケアシステムの体制を構築していく。



*「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。